

平成20年6月3日

各位

会社名 ナトコ株式会社
 代表者名 代表取締役社長 粕谷忠晴
 (JASDAQ・コード4627)
 問合せ先
 役職・氏名 取締役副社長 粕谷健次
 電 話 0561-32-2285

平成20年10月期中間(連結・単独)業績予想との差異 及び通期(連結・単独)業績予想の修正について

平成20年10月期(平成19年11月1日~平成20年10月31日)中間期及び通期の業績予想について、平成19年12月12日付当社「平成19年10月期決算短信」にて発表いたしました中間期及び通期の業績予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 平成20年10月期 連結業績予想の修正等

(1) 中間期(平成19年11月1日~平成20年4月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	6,600	690	700	340
今回修正(B)	6,467	571	576	242
増減額(B-A)	132	118	123	97
増減率	2.0%	17.1%	17.6%	28.6%

(2) 修正理由

売上高につきましては、塗料事業では、原材料価格の高騰に対し、製品への価格転嫁の遅れの影響を受けました。また、ファインケミカル事業においては、自己治癒コーティング材の受注が計画通りに伸展しませんでした。その結果、当初の計画を下回り6,467百万円(当初予想比:132百万円の減少)となる見込みであります。

営業利益、経常利益につきましては、売上高減少の影響に加え、原油価格高騰による原材料価格の上昇の影響等により、営業利益571百万円(当初予想比:118百万円の減少)、経常利益576百万円(当初予想比:123百万円の減少)となる見込みであります。

当期純利益につきましては、上記の理由に加え、投資有価証券売却損36百万円などの計上により、242百万円(当初予想比:97百万円の減少)となる見込みであります。

(3) 通期(平成19年11月1日~平成20年10月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	13,900	1,620	1,650	830
今回修正(B)	13,195	1,055	1,070	485
増減額(B-A)	705	565	580	345
増減率	5.1%	34.9%	35.2%	41.6%

(4) 修正理由

売上高につきましては、塗料事業では、新規顧客の獲得や製品の価格転嫁等に傾注してまいりますが、改正建築基準法の施行に伴う住宅着工戸数減少の影響による需要の低迷は、まだしばらく継続するものと推測しております。また、ファインケミカル事業では、自己治癒コーティング材の需要は増加するものと見込んでおりますが所期の計画までには至らず、液晶用スペーサーは需要の鈍化が予測されます。これらの要因により 13,195 百万円（当初予想比：705 百万円の減少）となる見込みであります。

営業利益、経常利益につきましては、売上高減少の影響に加え、原油価格高騰による原材料価格の上昇は今後も継続するものと思われ、原材料の代替等によるコスト削減や経費圧縮等に努力を重ねておりますが、原材料価格の上昇分を吸収するまでには至らず、営業利益 1,055 百万円（当初予想比：565 百万円の減少）、経常利益 1,070 百万円（当初予想比：580 百万円の減少）となる見込みであります。

当期純利益につきましては、上記の影響に加え、投資有価証券売却損などを中間期に計上したことにより、485 百万円（当初予想比：345 百万円の減少）となる見込みであります。

(5) ご参考：前期の実績（平成 18 年 11 月 1 日～平成 19 年 10 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
中間期(11/1～4/30)	6,596	776	800	401
通期(11/1～10/31)	13,434	1,441	1,480	683

3. 平成 20 年 10 月期 単独業績予想の修正等

(1) 中間期（平成 19 年 11 月 1 日～平成 20 年 4 月 30 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	6,200	630	660	340
今回修正(B)	6,023	506	518	233
増減額(B-A)	176	123	141	106
増減率	2.8%	19.6%	21.4%	31.4%

(2) 修正理由

売上高につきましては、塗料事業では、原材料価格の高騰に対し、製品への価格転嫁の遅れの影響を受けました。また、ファインケミカル事業においては、自己治癒コーティング材の受注が計画通りに伸展しませんでした。その結果、当初の計画を下回り 6,023 百万円（当初予想比：176 百万円の減少）となる見込みであります。

営業利益、経常利益につきましては、売上高減少の影響に加え、原油価格高騰による原材料価格の上昇の影響等により、営業利益 506 百万円（当初予想比：123 百万円の減少）、経常利益 518 百万円（当初予想比：141 百万円の減少）となる見込みであります。

当期純利益につきましては、上記の理由に加え、投資有価証券売却損 36 百万円、耐塗可塗料化工（青島）有限公司に対する投資損失引当金繰入額 24 百万円などの計上により、233 百万円（当初予想比：106 百万円の減少）となる見込みであります。

(3) 通期（平成 19 年 11 月 1 日～平成 20 年 10 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	13,000	1,480	1,540	830
今回修正(B)	12,280	915	960	475
増減額(B-A)	720	565	580	355
増減率	5.5%	38.2%	37.7%	42.8%

(4) 修正理由

売上高につきましては、塗料事業では、新規顧客の獲得や製品の価格転嫁等に傾注してまいりますが、改正建築基準法の施行に伴う住宅着工戸数減少の影響による需要の低迷は、まだしばらく継続するものと推測しております。また、ファインケミカル事業では、自己治癒コーティング材の需要は増加するものと見込んでおりますが所期の計画までには至らず、液晶用スペーサーは需要の鈍化が予測されます。これらの要因により 12,280 百万円（当初予想比：720 百万円の減少）となる見込みであります。

営業利益、経常利益につきましては、売上高減少の影響に加え、原油価格高騰による原材料価格の上昇は今後も継続するものと思われ、原材料の代替等によるコスト削減や経費圧縮等に努力を重ねておりますが、原材料価格の上昇分を吸収するまでには至らず、営業利益 915 百万円（当初予想比：565 百万円の減少）、経常利益 960 百万円（当初予想比：580 百万円の減少）となる見込みであります。

当期純利益につきましては、上記の影響に加え、投資有価証券売却損などを中間期に計上したことにより、475 百万円（当初予想比：355 百万円の減少）となる見込みであります。

(5) ご参考：前期の実績（平成 18 年 11 月 1 日～平成 19 年 10 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
中間期(11/1～4/30)	6,190	744	780	345
通期(11/1～10/31)	12,597	1,344	1,402	624

以 上